



日本カトリック海外宣教者を支援する会

巻頭言

ベトナムで学んだこと

聖パウロ修道会 司祭 山内 堅治

2016年7月から2019年5月まで、私はベトナムでの召命活動・志願者の養成のために派遣されました。以前、イタリアで2年半、アイルランドで半年間生活したことがあるので、何となくその延長線上と、ちょうど還暦を迎えた第三の人生の挑戦のようなものでした。

私が住んでいたのはホーチミン市内でも空港に近いタンビン区です。驚いたことに、私が住んでいた所から歩いて15分くらいの距離圏に教会が7つもあり、どれも信徒数が2,000人を超える教会でした。共産圏なのに、この数字に圧倒されました。

ベトナムへ行って挑戦したのは、ベトナム語の勉強です。とても難しいことは聞いていましたが、教会訪問や毎日のコミュニケーションのためには、どうしても必要だと感じました。そのため、ホーチミン市内にある人文社会科学大学に2年くらい通いました。日本で言えば、外国語大学のようなものです。通いながら思ったのですが、ベトナム語を勉強する人たちは、日本人だと東京外語大学、神田外語大学、大阪外語大学の交換留学生が多く、ほとんど20歳代です。また半数は韓国人の学生で、40代、50代になると社会人ですが、三分の一くらいは修道会・宣教会の方々でした。共産圏なので、みんな私服ですが、クチコミでだれが修道者かを



巻頭言	1
第82回運営委員会議事録	3
宣教者からのお便り	4
ザ・メッセージ ECHO	7
「宣教者のお話を聞く会」	8
クリスマス特集	10
連載「海外宣教」	11
新入会員・事務局より	12



教えてもらいました。具体的には、聖母被昇天会の司祭、クラレチアン会のブラザー、シスターでは聖心会、それ以外に日本に来ていない種々の修道会・宣教会。大司教館の修道会事務局の担当者に尋ねたら、「ホーチミン市内に未公認の修道会・宣教会も含めて約300の会がありますよ」と言っていました。種々の会がホーチミン市内に来ているので、大学でたくさんの修道者に会うのも納得がいきました。おかげで、ベトナム語だけでなく、いろいろな情報交換の場にもなりました。

また機会をみてベトナム各地を訪問しました。一番印象に残っているのは、旧正月の時です。1年目はゲアン省、2年目はナムディン省、3年目は再びゲアン省。ゲアン省はヴィン市内にあるミズ教会でお世話になりました。正月の2日目だったと思いますが、故郷に帰ってきた修道者・宣教者が一同に会し、教会で一緒にミサをささげ、その後、信徒会館で昼食を共にしました。志願者たちも含めて、30名近くいたでしょうか。会としては、神言会、レデンプトール会、ベネディクト会、シャルトルの聖パウロ会、ロザリオの会、ベトナム固有の修道会など。みんな久しぶりに会うので、話がはずんでいました。その中に、アフリカで宣教している神言会の



ゲアン省の旧正月（2019年）

司祭が久しぶりに帰国して、自分の体験談を分かち合ったり、修道会の神学生が英語で堂々と会話している姿に、とてもたくましいなあと感じました。

今、たくさんの技能実習生や留学生在が日本に来ています。ベトナム中部のゲアン省、ハーティン省、北部のナムディン省、ニンビン省、タイビン省の方々が多かったです。比較的貧しい地域です。これらの地域を訪問すると、貧しい生活ですが、家庭を大事にしながら、お互いに助け合い、生き生きしています。日本が忘れてしまったものを生きている感じです。約3年間でしたが、ベトナムのいろいろな地域を訪問しながら、日本では感じられないものを体験し、学ばせていただきました。



ナムディン省でのお祝い（2018年）

第 82 回運営委員会議事録

日 時：2021 年 9 月 11 日（土） 15:00 ～ 16:00

場 所：Zoom 会議

参加者：村上芳隆神父、伊藤厚志、Sr. 桐野香、後藤由美子、島上麻子、中村文子、Sr. 延江由美子、波多野光男、波多野真理子、Sr. 日高和子、山田真知子

議 事

本日の進行は大まかに **I** きずな 156 号、**II** きずな 157 号について、**III** 援助申請審議、**IV** その他、という風に進めて行き、早く終われば終わることとする。

I. 「きずな」156 号について

現在コロナでフィリピンに帰れず日本に滞在しているシスター奥田久子（悲しみの聖母アウグスチヌス修道女会）の巻頭言になどについて

伊藤：今回は単色 20 ページで仕上げた。前回の指摘を踏まえて編集を行なった。事業報告及び計画、決算・予算報告があった上、海外からもコロナ関連の投稿が多くあり、まとめることができた。次号は 12 月号なのでカラー版にしたい。

II. 「きずな」157 号について

巻頭言：次回の方は決まって居ないので、決まり次第メールにてお知らせとする。

12 月クリスマス号という事で会長村上神父様にも原稿をお願いしている。

その他原稿歓迎。

III. 援助申請

- a. チャドのシスター有菌順子（ショファイユの幼きイエズス修道会）からの村人の識字教室運営のための備品や文房具 €314.8（¥40,924）
12 人の先生の研修費、謝礼を含む。

全員賛成で承認された。

- b. 同じくチャドの有菌順子（ショファイユの幼きイエズス修道会）から、女子学生のアトリエでの活動支援のため裁縫材料（先生の謝礼含む）€180.3（¥23,439）謝礼の件は最初の立ち上げの給料や謝礼には応えることとする。

同じく全員賛成で承認された。

IV. その他

- ・きずな 156 号は業者発送になった。およそ 2,870 通。
- ・事務所発送 9 月 3 日ボランティア 3 人で海外便 114 通、大口等発送は 52 通であった。
- ・山野内司教様のお話会もやはり zoom で行う予定。なるべく委員の方には参加して頂きた

い、またご友人にもお知らせ頂き参加をお願いしていただく。zoom の情報は事務所からお知らせする予定。時間の確定はメールにて確認。日付は 10 月 9 日午前変更なし。お話の内容は「きずな」12 月号にも盛り込む予定。

- ・海外宣教者名簿はほぼ完成あとは細かいチェックを残すところ。
- ・フランシスコ会聖ヨゼフ修道院建物から JLMM は 9 月中に事務所を鎌倉へ移転される。
- ・その後外部団体は支援する会のみとなる。
- ・次回運営委員会 12 月 11 日（土）15 時形態は追ってお知らせ。



宣教者からのお便り



フィリピン

◆バコロド◆

感謝を込めて

善きサマリア人修道会 景 山 ひ ろ

過日「きずな」154 号までとその他に「カトリック生活」「心のともしび」等、沢山のプレゼントを頂き本当にありがとうございました。夜、時間の経つのも忘れて一頁々々丁寧に心にしみ入る思いで読んでまいりました。本当に久し振りの読書で、又「カトリック生活」にはたくさんの深い霊的教えがあり、非常に多くを学ぶことが出来ました。これからの宣教に大きな力となりました。ほんのひとことの御礼になりますが、よろこびと感謝をお伝え致します。

日本のコロナ禍も悪化する毎日のようで、心配致しております。バコロドはマニラなどよりはずっと減少していますが、幼、小、中、高の生徒は家庭学習のみ。映画なども 100% 閉鎖したままです。医療体制が悪いので皆だまっていますが、まんしているのでしょうか、いろいろ考えさせられます。

日本の皆様どうぞくれぐれも日々お気をつけてお過ごしになれますように。皆様のあたたかいご支援に心から感謝しつつ。

シエラレオネ

◆ルンサ◆

オプティミストでありたい

ご聖体の宣教クララ修道会 白 幡 和 子

去年の一月からいろいろなことがありました。皆様の寛大なご支援のおかげで今年もみんなが元気に学び、遊ぶことが出来ました。

個人としては今年はマラリアやチフスその他の病気に頻繁にかかってしまい、やはり年のせいかと思います。頂上やシスターのいう事を聞いてできるだけシェスタ（午睡）はするように努めています。

同じ今日一日、「自分の人生はもう半分過ぎてしまった、取り返しがつかない」とがっかりしてうつむいてしまうペシミスト（悲観主義者）ではなく、少なくともまだ今日は生きられたのだと感謝し、背筋を伸ばして生きていくオプテ

イミスト（楽観主義）でありたいとつくづく思います。

重い仕事、きつい仕事は出来なくなりましたが、座っての刺繍はいつでもできます。小さな刺繍のひと針ひと針を本当に愛をもってやることに今まで以上にやりがいを感じます。

今年も大いなるご支援をいただき心から感謝申し上げます。 くともに歩む会 抜粋>

グアテマラ

◆コロンバ◆

無料朝食サービス

ベリス・メルセス宣教修道女会 眞 神 シ ゲ

グアテマラに戻り、1ヶ月が過ぎました。コロンバの屋根葺きは終わった。と連絡がありました。これは、一軒家なのです。

瞬く間に、3ヶ月が過ぎました。滞在ビザ更新など面倒な手続きが終



完成した屋根

わって、ホッとしています。

10月31日の日曜日、最後の日曜日でしたので、いつもの様に朝食サービスの日でした。

コロナも落ち着いたせいでしょうか？それとも、慣れてしまったからでしょうか？今回は80人を越える方が、無料朝食を楽しんで下さいました。頂いた支援金を使わせていただいています。感謝のうちに。

グアテマラ市には、三つの貧民窟があります。

ここは、ロスアンヘレスと呼ばれている貧民窟です。グアテマラ国は、未だに軍事政権が続いています。1996年に36年間続いた内戦が終了したとなっていますが、実は、未だ・まだ続いていて、貧民窟に逃げ込んでくる人が多いのです。村のリーダーを殺される。村を銃を持った軍人に突然囲まれる。軍人に手向かう神父などが殺される。などの恐怖政治が秘密裏に続いているのです。ニュースに取り上げられることはないようです。

このような方たちのために、ミサの後、無料朝食会を続けています。10時までです。コロナ前には、教会の庭で、食べていく方が多くいましたが、今は、家に持って帰る方が増えました。



朝食を取りに来た方々



朝食を作っている協力者

チャド

◆ライ◆

アガタさんの近況

ショファイユの幼きイエズス修道会 泉 叔 美

助産師養成コースが実施されているサル市は私たちの住んでいるライ市から約300 kmほど離れたところにあり、また一番近い銀行のあるドバ市まででも120 kmあります。町と町の間はすごい悪路で、とくに雨季は道路がいたるところで冠水したり大きな穴があいたり、交通はとても不便です。

このような状況のおかげでライ市はコロナウイルスからは守られ、感染者をほとんど出すことなく現在まですごしてきました。数人の感染者が外部から入った時もそれ以上に広がることなく済みました。

アガタさんはとても元気で喜んで勉強を続けています。各月毎の領収書を見せてもらいます。あと1年で資格をとって終了することができると思います。感謝のうちに!!

チャド

◆ライ◆

マラリアに感染して

ショファイユの幼きイエズス修道会 松 山 浩 子

7月9日帰国早々空港到着後、空港検疫において行動を確認するためのアプリをインストール。チャドから持参したスマホを何と8か所くらい調べられました。

海外から来たオリンピックの選手たちも大変だったと思います。

公共機関のモノレールが使えず、荷物を担いだまま長い道を歩く、日本みたいに厳しい所はないのでは？と思いました。

私は修道院で7月10日～23日まで自宅待機。7月19日に急に吐き気、発熱、22日には39.9度となり宝塚保健所から電話がありました。多分マラリアで大丈夫と言いました。“キニネ”のお薬や下熱剤で少し体調が良くなりました。7月26日、27日近くの病院でPCR検査。血液は栄養不足、貧血状態。胃に少しポリープがありましたが、感染は大丈夫でした。チャドでもマラリアが腸チフスになると吐き気・高熱・めまいとなり熱中症によく似た状態です。そこで8月4日～11日まで入院。毎日点滴、抗生剤と食後の薬、担当の先生が「熱の出方がマラリアのようでここでは検査できませんので、神戸大学医学部付属病院に行くように」と言われました。8月11日に退院と同時に予約外来AM10:00。修道院の車でJR西宮まで送って頂き地下鉄の大倉山まで行きました。PM3:00に血液検査結果が出ます。マラリアが多かったら即入院でしたが、少なくて近くの病院に入院しました。初めて画像で見たのですが、赤血球の中に“マラリア原虫”がいました。今少しずつ薬で回復しています。私は初めてチャドに行ってマラリアになった時は治るまで約2か月かかりました。その時私の高校の恩師でチャド宣教の大先輩であるシスター内田マリ子が心から看病して下さいましたが、今年2021年6月17日にシスターは帰天したのです。

私たちは、1980年に始まった「ショファイユの幼きイエズス修道会」のシスター方の礎があるからこそ、知人、チャドの神父様方、司教

様方の保護のもとに生かされています！

コロナ感染拡大でとても外出できません。「きずな」で結ばれた皆様のお祈りの賜物でなんとか元気になっています。食事ができるようになってきました。日本でゆっくり入院できた事は幸いでした。

今もアフリカではエチオピア、マリ、ニジェール、シリア、アフガニスタン、ミャンマーも戦

争状態が続いています。このコロナ感染拡大も戦争のようです。

本当に平和な世界となりますように、チャドの大統領も戦地で亡くなりましたが暴動も無く静かです。コロナ感染より死亡率の高いのはマラリアです。健康に注意しながらがんばります。

10月1日に日本を出発する予定です。祈りのうちに！



* グアテマラ

ベリス・メルセス宣教修道女会 眞神シゲ

クリスマスの準備が始まっています。先日貧民窟に住む子供達が、特に幼児 80 人以上がコロナ感染で亡くなったと聞きました。家が密集

している事、食べ物の不足、手を洗う水の不足等、衛生管理が徹底していないことなどが原因だと聞きました。こんな悲しいことが起きる世界を何とか変えたいですね。私たちの祈りと小さな犠牲で、無くすことができれば嬉しいです。



△ I WISH TO SAY THANK YOU TO BVM
FATIMA LOURDES KNOCK

WALSINGHAM LORENTO SILUVA
CHESTOCHOVICH PILIPIN G

(兵庫県明石市 HARVEY PAUL A. S.)

△ ネグロス島葛西教会に関わっていらっしゃるシスター奥田久子様の活動の為に一部でも使っていただければ幸いです。

(鹿児島県鹿児島市 岩崎正幸)

△ ブラジルのシスター塚本深冬さんお元気そうで嬉しいです。(高校の同級生です) 佐々木神父様はお元気でしょうか？

(東京都八王子市 岡田和子)

△ 「きずな」156号有難うございました。読みますと沢山の元気がいただけます。

(千葉県習志野市 東田裕子)

△ 現地の人々の暮らしが少しでも良くなりますように、また加入されている皆様方に平安がありますように。(東京都中野区 篠岡淑子)

△ 海外でお働きされているシスター方々のご活躍を心から応援しながら「きずな」の記事内容を拝見して元気を戴いております。感謝です！

(東京都杉並区 山本昌子)

△ Sr. 弘田の記事を「きずな」156号で拝読させて頂き気持ちばかりですが寄付させて頂きま

す。(東京都武蔵野市 中川和子)

「宣教者のお話を聞く会」

日時：2021 年 10 月 9 日 土曜日

10 時～ 11 時半 リモートにて

講演者：さいたま教区 山野内 倫昭（マリオ）司教

「全世界に行って、福音を宣べ伝えなさい」（マルコ 16.5）

日本から海外へ派遣された宣教者たちを思い起こしながら

第1部 自己紹介 1955 年 12 月 8 日、大分県の港町、佐伯生まれ その教会からは、サレジオ会に入った私たち兄弟の他にシスターなども出ました。1964 年 5 月 31 日、神戸から家族でアルゼンチンに向け出発しました。ちょうど東京オリンピックの年でしたので、私が乗りました船ブラジル丸はオリンピックに出た人も乗せて帰ったと聞きました。2,000 人くらいの村に住むことになりましたが、中学校の時にサレジオの中高に行き、サレジオの志願院に入りました。1975 年にサレジオ会員となり、1984 年に司祭叙階、1997 年に日本に帰国（国籍はアルゼンチン）、2018 年 9 月 24 日にさいたま教区司教になりました。

現在、日系の方も含めれば、海外で活動している日本人宣教師は 200 人くらいで、この「海外宣教者を支援する会」は 1982 年に発足しました。日本の教会からの海外宣教の召命はいつごろから始まったのか、最初にブラジルに送られたのはいつ頃からだったのでしょうか。1986 年、ブラジルの PANIB（日伯司牧協会）を初めて訪問する機会に恵まれたのですが、日本からの宣教師の多さにびっくりしました。なぜ、海外にまで宣教に行ったのか、なぜブラジルにこんなに多いのかと考えると、まず日本人が多い所に行ったのだろうと想像できました。きっと、「全世界に行ってすべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」というマルコのみ言葉がモチベーションだったとも思いました。ペルーや他の国にも行ったのも同じような時のしるしに導かれてでは」と思います。

しかし、外に出ていかないと時のしるしは見えてきません。バルコニーの上から見て いるだけでは外や下は見えず、本当に見るにはそこから降りてこなければなりません。大切なのは一緒に参加すること、足を一歩踏み出してこの世で一番苦しんでいる人々の所に行くことです。そして、イエス様が何を望んでいるのか考えること。皆がカトリックにならないといけないとか、カトリックにならないと良い人にはなれないという教育を受けたので、疑いも持たずそう考えていました。しかし、カトリックでなくても立派な人が沢山います。イエス様の望んでおられることはそういうことではないと思います。

今いるところから外に出て行かなければならないことについては、フランシスコ教皇とのインタビュー集を収めた「召命の力奉獻生活の今」（フェルナンド・プラド・アユーソ C.M.F.：クラレチアン宣教会司祭）という本の中に色々と書かれております。たとえば、教皇フランシスコは、「そ

れがとても大切で、それだけではなくそこに土着（住み着くこと・なじんでいくこと）することが大切です。そのためにはその道を通して証していくことです」と。また、グアダルベ宣教会の神父様方は、「宣教とは、言葉だけではなく、まず、その国のことを学ぶことだと仰って私もそう思いました。回勅「福音宣教」はパウロ2世が著しましたが、第二バチカン公会議の後では教会でもその勉強会が盛んであったそうです。その中では、新しい宣教、熱意、工夫、内容などの宣言がありました、私もとても影響を受けました。パウロ6世は、「カトリック教会はこれから人類の奉仕者にならなければならない。宣教とは命を捧げる覚悟を持って最も危険な所に行くことである」と言われました、この言葉も忘れられないものです。イエズス会のペドロ・アルペ神父様の本にも啓発されました。イエズス会第20代総長で、「私は原子爆弾を体験した」という本にはとても感化されました。彼はその後、世界の難民のためにも働かれました。

全世界に行ってすべての人々に福音を延べ伝えなさい。それは今苦しんでいる人の所に行って働きなさいという事です。行政の行き届かないところに宣教者は行くということです。それはもはや宗教を超えて今必要なところに必要なことを行うことが宣教だと思います。過去には日本にもたくさんの宣教師がやって来ました。イエスの姿を現す弱い人々の所に行くという事です。そしてそのような働きをしているカトリック以外の人にも寄り添って行かなければなりません。

第2部 宣教は命を懸けてそれを捧げる熱意です。きずな148号にブラジルでの体験を書きましたが、司祭になってまだ1年半くらいの時、日本語もすっかり忘れていた私でしたが、1985年12月8日、ローマで、同じ会の菅原神父様から、突然、「日本に来てください」と言われ、23年ぶりに日本に帰りました。そして、宣教師になるには、まず、子供のようになって、現地で言葉を勉強しないといけないと気づかされました。

実家の山野内家はアルゼンチンに15年間いましたが、現地の皆さんからとても愛されたことを思い出します。多くの日本人移民たちは現地で評判が良かったと思います。その時も海外からの寄付はとても重要でした。日本の宣教師は帰国する度に一生懸命寄付を集め、宣教地へ持って帰られたのです。私たちも日本から派遣されている兄弟姉妹を見るにつけ、支援する喜びを感じながら、彼らを支え続けてゆくべきでしょう。

世界には気候の変動等で移動を余儀なくされている人々が大変多くあり、中でもアフリカやアジアなどでの難民問題がとても深刻です。難民の受け入れはどの国であっても難しいです。しかし、日本もかつては多くの日本人が海外に移民として出て行ったことを忘れてはいけません。日本の法律にも様々な制約があり、難しい問題もあるでしょうが、せめて、すでに現在、日本にいる外国籍の人々のため、できるだけの支援をしなければと考えています。ミサの式次第も様々な言語で作っていかねばならないと思います。

皆様と力を合わせ、神様が御もとに呼んでくださるまで熱意をもって働いていきたいと思っています。

（1時間半のお話の一部を割愛させて頂きました。）

クリスマス特集

恵みの上に、更に恵みを受けた。

支援する会会長 フランシスコ会 村 上 芳 隆 ofm

昨年からのコロナ禍は、世界中の人々の生活、仕事、経済活動に予想を遙かに超えた影響を与えました。教会の諸活動が停まり、主日のミサにも参列出来ない日々が続いていましたが、今は少し落ち着いてきました。このまま沈静化することを願っています。今年の降誕祭は盛大にお祝いしたいものです。降誕祭を迎えるにあたり、8月から11月にかけて、わたしの予想を超えた個人的な体験について少し分かち合いたいと思います。

新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種の2回目を、わたしは6月12日に済ませました。そして7月1日には、フランシスコ会の総集会に出席するためにローマへ飛びました。全世界から150名ほどの会員が集まり、よく管理された安全な「バブル環境」の中で総集会は開催されました。7月20日にイタリアから帰国しましたが、日本入国時に導入したスマホアプリを通して毎日ランダムな時間に3回も所在確認されました。また、担当者による電話での直接確認もありました。そんな自宅待機の二週間を過ごし、8月の初めに待機が解除されて最初に出かけた場所は、近くのクリニックです。そこで、港区から案内のあった無料のガン検診を受けました。結果、8月の末には胃ガンとの診断が出ました。クリニックから大きな病院を紹介され、9月にはそこでさらに精密検査とガンの治療を受ける事になりました。精密検査を幾つも受けていると、心臓にも問題があることが判明しました。それで10月に心臓の冠動脈バイパス手術を受け、胃ガンの手術は11月に延期されました。

実は、心臓手術後に、膀胱と前立腺にも問題があることが判り、幸いにも適切な治療を受けることが出来ました。今まで自覚症状は全くありませんでした。無料のガン検診を受けたときには想像もしていなかった展開に正直ビックリしています。これまで一度も入院したことのないわたしにとって、いきなり種々の精密検査と入院、大きな手術2回、リハビリテーションの日々は想定外の大きな出来事だからです。

このニュースを聞いた周囲の人たちは、「大変ですね、ゆっくり療養して下さい。今まで忙しいから」とお見舞いの言葉をかけて下さいます。それはとてもありがたいことで感謝しています。少なくとも年末までは、あるいはもう少し先まで、療養とリハビリテーションが続くからです。しかし、10月に入院している間に、「今経験していることは、とても有り難い事が幾つも続いているのではないか」と思うようになったのです。というのも、「恵みの上に、更に恵みを受けた」というくみことばが心に浮かんできたからです。それはヨハネ福音書1章16節、「わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた」という箇所です。実はこの箇所、主の降誕日中のミサで朗読される福音書の一節です。「いくつも悪い事（病気）が見つかった」という思いよりも、適切な治療を早く受ける事が出来た事、また、わたしには「新しいノーマル」が必要だと実感出来た事は、ありがたいことだと思ったからです。まさに、＜危機は機会である＞ことを、身をもって体験しています。つまり、想定外の出来事も恵みの時となり得るのです。わたしたちは＜恵みの上に、更に恵みを受け＞ていることに、気付かない事が多いのかも知れません。それはもったいないことではないでしょうか。御父の温かいまなざしと愛し子イエスと聖霊の交わりから来る＜新しいいのち＞の恵みを再発見し、味わい、共に生きて分かちあうことが出来るようになりたいものです。

とものためにいのちを

弘 田 しずえ

ベリス・メルセス宣教修道女会

10月9日、2017年2月、西アフリカのマリでジハード主義者に拉致されたシスターグローリア・セシリア・ナルバエスが、4年8ヶ月ぶりに解放されました。シスターグローリアは、無原罪のマリアのフランシスコ会に属するコロンビア人で、西アフリカのマリにおいて、12年間、小教区で貧しい人びとに奉仕し、3人のシスターと一緒に生活していました。マリは、2019年にクーデターが起こり、軍の指導者は、選挙を公約しながら、18ヶ月が混乱のうちに過ぎている状況です。シスターグローリアを拉致したジハード主義者は、アルカイダと同盟関係を持つイスラム武装グループで、サハラ砂漠南縁部に位置するモーリタニア、セネガル、マリ、ブルキナファソ、ニジェール、チャドなどの国ぐにに存在するイスラム武装グループの中で最大とされています。ブルキナファソとの国境近くに拉致されたシスターグローリアの救出には、政府、カトリック教会、コロンビア警察、インターポール、アフリカ、ヨーロッパ諸国外交官、特に宗主国であったフランス政府が、協力して行われました。今年になってから、同じように拉致されていたヨーロッパのNGOの2名が脱出し、記者会見でシスターグローリアの健在が伝えられるまで、修道会もコロンビアの家族も、希望と恐れを揺れ動く5年間近い年月を祈りながら過ごしたのです。近年、資金調達を目的としたイスラム武装集団による拉致が多く起こっていますが、シスターグローリアの釈放に身代金が払われたのか否かは、明らかにされてはいません。

修道会のシスターは、メディアの質問に応じて、拉致された当時、55才だったシスターグローリアは、一番若いシスターを連れ去ろうとしたジハディストに、身代わりとして自分を差し出したと語っています。「シスターグローリアは、人間として、とても特別な資質を持っています。貧しい人々をこの上なく愛し、とても近づきやすい優しい人柄です。」10月9日に解放されたシスターは、翌日ローマに直行し、11月10日、聖ペトロ大聖堂でシノドス開催のミサに参加し、パプ様は、ミサの始まる前にシスターに近づいて歓迎し、ミサの後も、また近づいて祝福を与えられている映像が、世界中に流されました。

ISなどによるキリスト者の殺戮が、伝えられている現代、身代わりとして自分を差し出すという勇気ある行動を可能にする力は、小柄で、どちらかと言えば目立たないようなシスターのどこから生まれたのかと考えさせられます。キリストに従う促しを受け入れ、自分の生き方とするならば、「キリストのように、考え、話し、行い、愛する」ことが、日常になるはずなので、危機的状況において、いのちを投げ出すことも、実は、当然のはずですが、振り返って自分を見れば、当然とは、程遠い自分に気づかされます。メルセス会に属する私たちには、「いのちを失う危険のある場合にも、きょうだいたちのために、宣教の使命を全うする」という第四誓願があるのですが、シスターグローリアのニュースを知り、あらためて考え、ふりかえり、祈る招きを感じています。

今日もまた、ハイチでクリスチャンの宣教師のグループが拉致されたというニュースが流れています。



クリスマスメッセージ

「苦しいことの多い日々にあっても
一人子イエズス・キリストを遣わして下さった
神の大きな愛に包まれて、希望を持って
進んで行くことが出来ますように
ともに祈りましょう。」

新入会員 (敬称略)

個人会員 7名

氏家 宣子(埼玉県宮代町) 山口 照男(東京都渋谷区) ロジェ・プロヴァンシェ(東京都渋谷区)
更田 史子(東京都中野区) 癸生川 節子(神奈川県横浜市) 中川 和子(東京都武蔵野市)
重黒木 まゆみ(宮崎県延岡市)

前号：新入会員名、田口幾子→田口純子に訂正してお詫びいたします。

事務局より

- ◎今年も1年間にわたりご寄付を賜りましたことに、心から感謝を申し上げます。宣教者の方々と共に来年も地道に活動して参りたいと考えております。
- ◎今年は10月にさいたま教区山野内マリオ司教様の「宣教者のお話を聞く会」をリモートで開催。初の事でしたが、まるで司教様がすぐそこにいらっしゃるようでお話を十分味わうことが出来ました。12月号に一部抜粋が出ています。
- ◎今年も残り少なくなって参りました。新しい2022年はどんな年になるのでしょうか？コロナのニュースを聞かなくなれば幸いです。
- ◎海外へ出かける方も増えて来ると思います。やむなく帰国しておられる宣教者の方々も、早く現地に行きたいと考えていらっしゃると思います。
- ◎いつも未使用のハガキや切手をお送りくださり有難うございます。有効に使用させていただきます。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。
- ◎日程：12月24日クリスマスイブより事務所をお休みにさせていただきます。新年は7日よりオープンいたします。

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

- ・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112
日本カトリック海外宣教者を支援する会
- ・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会